

〔共同研究：「大学生」に関する総合的研究〕

私立大学における専門教育と キャリア形成支援（1）

——4大学の学生調査の比較分析——

岩 田 考

1. はじめに

本稿は、桃山学院大学総合研究所共同プロジェクト「『大学生』に関する総合的研究」（研究代表：木下栄二）の研究成果の一部である。プロジェクトは、「主に本学学生を対象にして、授業をはじめとするキャンパスライフと彼らの将来設計に焦点をあてながら、現代大学生の特徴について明らかにすることを目的」としている¹⁾。

本稿では、本学を含む関西にある私立4大学で実施した「大学生のキャリアと就職に関する調査」のデータに基づき、専門教育とキャリア教育やキャリア形成支援との関係を検討する。特に、本学のような中堅私立大学における課題を明らかにすることを試みたい。今号より複数回にわたって分析結果を報告する。今回は、(1) 入学時および大学教育や学生生活に関する意識および(2) 職業希望について検討する。次稿以降で、(3) 労働観・職業観、(4) キャリア形成支援・就職支援に関する意識、(5) 就職活動に関する行動や意識について報告する。さらに、就職活動の満足度や内定獲得に関する規定要因に関する分析なども行う予定である。

2. 問題の所在

本稿で分析に使用する「大学生のキャリアと就職に関する調査」は、本学のような中堅の私立大学において、各学部各学科の専門教育とも両立しうのようなキャリア教育やキャリア形成支援の可能性を探るという問題関心から行われた。

1990年代以降、フリーターやニートに象徴されるように、若年就労が大きな社会問題とされてきた（岩田 2010）。大卒においても、無業者の増加が問題とされ、キャリアセンターの設置やインターンシップの実施などキャリア教育やキャリア形成支援に力を入れる大学が増加している（中央教育審議会 2011, 沢田 2011）。

1) 本プロジェクトは2009年度で終了しているが、2010年度から「『大学生』に関する総合的研究（Ⅱ）」（研究代表：木下栄二）を既に開始し、残された課題を明らかにすることを試みている。
キーワード：大学生、専門教育、キャリア、就職、比較調査

就職活動の早期化が大学教育に与える影響については以前から問題視されてきたが、キャリア教育やキャリア形成支援の推進は、問題をより複雑かつ困難にしている。特に、入学難易度のあまり高くない大学においては、専門教育の成立をますます難しくするという課題が浮き彫りになってきている（沢田 2011）。

現在のキャリア教育やキャリア形成支援の問題点に関する指摘（例えば児美川 2011など）や、キャリア教育が持つ効果、就業意識や職業観に与える影響などについては、研究が徐々に進められつつある。しかし、キャリア教育が各学部各学科に固有な専門教育に与える影響については、十分に検討されているとは言えない²⁾。そこで本稿では、専門教育とも両立しうるようなキャリア教育・形成支援の可能性について検討していくための基礎的な資料を提供したい。

3. 調査概要

(1) 調査内容

調査内容については、労働観や、キャリア形成支援、就職活動など働くことをめぐる項目が中心となっているが、就職に影響を与える要因として大学教育や学生生活などに関する質問なども行った³⁾。また、質問紙の作成に際しては、就職問題研究会（代表：荻谷剛彦・東京大学大学院教授 [当時]）が1993年、1997年、2005年に実施した質問紙の内容を参考にしている。

主な調査項目は以下のようにになっている。詳細については、付録の調査票を参照していただきたい。

- ①属性（所属、性別、年齢、学年、居住形態、所属クラブ・サークル、両親の学歴など）
- ②大学教育・生活（大学教育・生活への取り組み、その経験から身につけた能力など）
- ③職業希望（希望職業の明確度、希望職業の決定に影響を与えた要因など）
- ④職業観・労働観（働く目的、理想の職場、離職に関わる意識など）
- ⑤キャリア形成や就職支援に関する意識（利用度、有用度、満足度、要望など）
- ⑥就職活動（開始時期、活動量、満足度、内定数、内定時期、内定先企業など）
- ⑦社会・生活意識（社会的スキル、格差についての意識、性別役割観など）

(2) 調査の時期・対象・方法

調査時期に関しては、就職活動のスケジュールに配慮して、10月以降とした。これは、日

2) 大学教育に限定されたものではないが、本田由紀（2010）は、「教育の職業的意義」という観点から教育における専門性を問い直す試みを行っている。

3) なお、本調査の調査票の作成においては、平成19・20年度財団法人文教協会の研究助成を受けた「大学におけるキャリア教育の可能性と課題——専門教育との両立を目指して」において実施予定であった調査と質問内容を統一した。これは、なるべく多くのデータを収集しようという意図による。本稿のデータは、同時期に行ったこの2つの調査データをあわせている。

本経済団体連合会の「大学卒業予定者・大学院修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章」において、「正式な内定日は、10月1日以降」とされているためである。多くの企業が10月初旬に正式な内定通知を学生に渡す内定式を開いており、内定先企業等について把握するためには10月以降が適切であると判断した。ただし、4回生の調査票の回収状況等から、10月から11月の実施予定期間を12月まで延長した。

また、当初は関東や四国など関西以外の地域の大学との比較も視野に入れていたが、就職活動が地域的な特性に影響されることを考慮して、今回は対象校を関西圏の大学に限定することとした⁴⁾。関西圏の大学の選定においては、先行研究をふまえ入学難易度に着目した（荻谷 1998、永野 2004、荻谷他 2006、濱中 2007a、濱中 2007b など）。できる限り同じようなタイプの学部になるよう配慮し、社会学部および生活・学際系学部を対象とした。

なお、4大学の対象学部の入学難易度は、代々木ゼミナールの2009年度用大学入試難易ランキング一覧によると、おおよそ次のようになっている。A大学60前後、桃山学院大学50前後、C大学45前後、D大学40前後である。

①調査時期：2008年10月末～2008年12月

②調査対象：関西にある4つの私立大学の社会学部および生活・学際系学部の授業やゼミを履修する1回生から4回生

③調査方法：授業およびゼミ時間中に、出席学生を対象として、質問紙を用いた集合調査を行った（ただし、4回生の卒論指導等でゼミ中に時間がとれない場合は、持ち帰って回答してもらったものも一部ある）。

（3）回収数と回答者の基本属性

調査票の回収数は、合計で909票であった。ただし、本稿では、留学生25名を除く884名について分析を行う⁵⁾。

大学別にみると、A大学331名、桃山学院大学387名、C大学98名、D大学68名となっている。性別では、男性445名、女性438名、不明1名である。学年別では、1回生224名、2回生227名、3回生247名、4回生以上161名となっている。詳細については、表1を参照していただきたい。

各大学の教員への調査依頼にあたっては、就職活動に関する内容を含むため、ゼミを通じて4回生の回答の確保をお願いした。また、他の学年においては偏りがでないよう協力を求めた。しかしながら、結果として、各校とも学年ごとの人数にかなり偏りが生じている。結

4) 先述した後継プロジェクトである『『大学生』に関する総合的研究（Ⅱ）』（研究代表：木下栄二）では、より幅広い大学生の意識について、2010年度に日本全国の27大学の学生を対象とした調査を実施している。岩田と共同研究者の浅野智彦が、2011年度の日本社会学会大会において、分析結果の一部について報告を行った。

5) 留学生は、A大学2名、桃山学院大学1名、C大学1名、D大学21名である。D大学の留学生比率が非常に高くなっている。このこと自体、検討に値する傾向といえるが、別の機会に行いたい。

表1 基本属性別にみた回答者数

(人)

大学			性別			合計
			女性	男性	DK/NA	
A大学	学年	1年生	28	18		46
		2年生	68	54		122
		3年生	64	37		101
		4年生	31	26		57
		5年生以上	1	4		5
	合計		192	139		331
桃山学院大学	学年	1年生	66	84	0	150
		2年生	31	31	0	62
		3年生	42	50	0	92
		4年生	25	53	1	79
		5年生以上	0	4	0	4
	合計		164	222	1	387
C大学	学年	1年生	3	10		13
		2年生	24	14		38
		3年生	10	20		30
		4年生	9	6		15
		5年生以上	0	2		2
	合計		46	52		98
D大学	学年	1年生	14	21		35
		2年生	1	4		5
		3年生	20	4		24
		4年生	1	3		4
	合計		36	32		68

果の解釈においては、このような回答者の偏りに留意していただきたい。なお、C大学とD大学の回収数が少ないのは、一学年あたりの学生数が他の2校に比べて、少ないことも影響している。

また、本調査のデータは、ランダムサンプリングによって得られたものではなく、母集団（4大学の対象学部の学生）を代表するものとはなっていない。したがって、本来であれば統計的検定を行うことはできないが、結果解釈の参考のため、検定結果を次稿以降も含め一部表示している。

4. 結 果

(1) 入学時および大学生活に関する意識

キャリア形成支援や就職活動に関する意識を見る前に、まずは入学時の意識および大学教育や学生生活に関する意識についてみてみることにしよう。

①在籍学部の選択理由

表2は、大学に入学する際に、現在在籍している学部を選択した理由を示している。4大学合計では、「専攻したい学問・研究だったから」が45.0%と最も多く、次いで「何となく」

18.8%となっている。本学社会科学の学生は、「専攻したい学問・研究だったから」が35.1%で、A大学やC大学に比べ20ポイント程度低くなっている。また、「何となく」が23.0%と、4大学のうちで最も割合が高くなっている。A大学とC大学の回答傾向は比較的似ており、学部選択の理由は、かならずしも入学難易度に強く規定されるわけではないようである。

しかし、3番目に割合の高い「将来の進路のため」では、入学難易度が低い大学で、その選択率は高くなる傾向がある。入学難易度の最も高いA大学ではその選択率は1割に満たないが、D大学では3割を超えている。

なお、「何となく」以外で、本学社会科学の学生の選択率が高くなっているのは、「入学レベルがあっていたから」10.3%や「先生のすすめ」8.6%である。この傾向は、木下栄二(2011)による本学の新生実態アンケート調査の分析傾向と一致している。

表2 在籍学部の選択理由

	在籍学部の選択理由												合計
	専攻したい学問・研究だったから	将来の進路のため	学力レベルがあっていたから	学部の就職状況が良かったため	まわりの友だちが行くから	家族のすすめ	友人・先輩のすすめ	恋人のすすめ	先生のすすめ	何となく	その他	DK/NA	
大学 A大学	56.4%	8.6%	4.9%	1.2%	0.3%	1.8%	1.2%		4.0%	15.6%	5.2%	0.6%	100.0% (331)
桃山学院大学	35.1%	12.7%	10.3%	0.3%	0.5%	1.6%	1.4%	0.5%	8.6%	23.0%	3.8%	2.2%	100.0% (387)
C大学	54.3%	12.0%	9.8%			2.2%	1.1%		2.2%	14.1%	4.3%		100.0% (98)
D大学	30.2%	34.9%	3.2%						1.6%	17.5%	7.9%	4.8%	100.0% (68)
合計	45.0%	12.7%	7.6%	0.6%	0.4%	1.6%	1.2%	0.2%	5.6%	18.8%	4.7%	1.5%	100.0% (884)

②大学の授業に対する期待

表3は、大学の授業で最も学びたいと考えていることについてたずねた結果を示している。4大学合計では、「幅広い知識やものの見方」が43.6%と最も多い。次いで、「将来の職業で役立つ知識や技能」18.2%、「何かを学ぶ際に基礎となる力（問題を発見する力・分析的に考える力・論理的に文章を書く力など）」16.6%となっている。入学難易度別にやや差が見られる。入学難易度の高いA大学で「幅広い知識やものの見方」や「何かを学ぶ際に基礎となる力」など汎用性の高い力を期待する割合が高くなっている。それに対して、入学難易度

表3 大学の授業に対する期待

	大学の授業で最も学びたいこと							合計
	幅広い知識やものの見方	専門的な知識や技能	何かを学ぶ際に基礎となる力（問題を発見する力・分析的に考える力・論理的に文章を書く力など）	将来の職業で役立つ知識や技能	コミュニケーション能力	その他	DK/NA	
大学 A大学	56.7%	8.9%	19.3%	9.5%	2.8%	0.9%	1.8%	100.0% (331)
桃山学院大学	35.4%	14.3%	15.7%	23.5%	10.3%	0.3%	0.5%	100.0% (387)
C大学	35.9%	18.5%	18.5%	20.7%	5.4%	1.1%		100.0% (98)
D大学	34.9%	22.2%	4.8%	28.6%	3.2%		6.3%	100.0% (68)
合計	43.6%	13.3%	16.6%	18.2%	6.3%	0.6%	1.4%	100.0% (884)

が高くない大学では、「専門的な知識や技能」や「将来の職業で役立つ知識や技能」などより実用的な力を期待する傾向がある。また、本学社会科学の学生は、「コミュニケーション能力」をつけることを期待する割合が他の3大学に比べ高くなっている。

③大学時代に力を入れた活動

次に、大学時代に熱心に取り組んだ活動についてみてみよう。図1に示したように、9つの活動についてたずねた。「非常に熱心」と「ある程度熱心」をあわせた〈熱心〉の割合をみると、どの大学でも「友人とのつきあい」に〈熱心〉に取り組んだと回答する者が約8割と最も多くなっている。また、D大学を除く3大学で「アルバイト」に〈熱心〉に取り組んだ者が7割を超えている。「友人とのつきあい」と「アルバイト」に励む昨今の大学生イメージと一致する結果となった。なお、本学社会科学の学生は、「クラブ・サークル活動」に熱心に取り組んでいる者が他の3校に比べ高く、60.2%となっている。

その他に熱心に取り組んでいる割合が高いものとして、「専門科目の勉強や研究」がある。A大学やC大学では〈熱心〉の割合が約7割と高いが、本学社会科学の学生は56.6%と最も低くなっている。それに対して、「一般教養の講義・勉強」はC大学と本学で高くなっている。勉強や研究への取り組みは、入学難易度によって単純に規定されるわけではないようである。

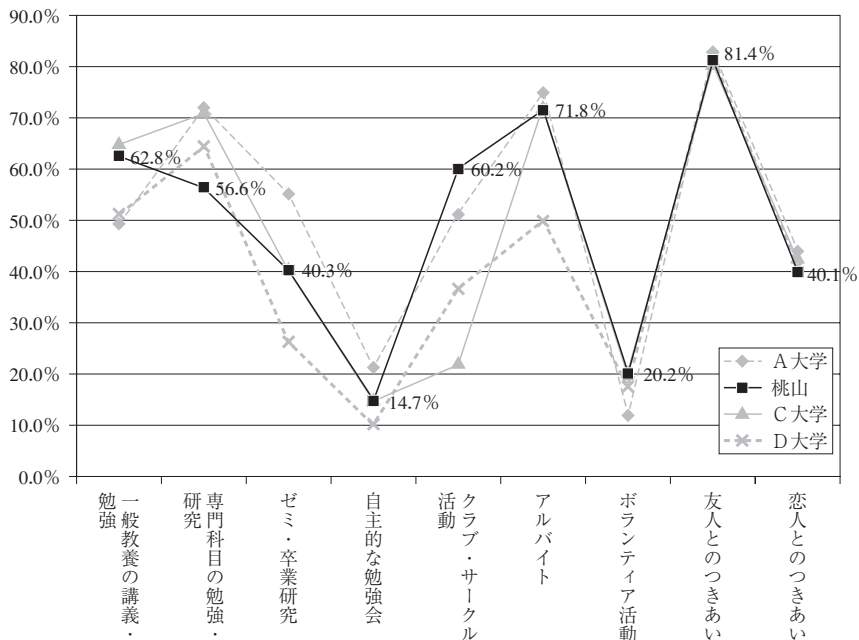


図1 大学時代に熱心に取り組んできたもの

注) 「非常に熱心」と「ある程度熱心」をあわせた割合(%)。そのような取り組みをしていない者も含んでいる(A大学: N=331, 桃山学院大学: N=387, C大学: N=98, D大学: N=68)。

表4 専門科目の勉強・研究に熱心に取り組んできた理由

	専門科目の勉強・研究に熱心に取り組んできた理由							合計
	将来の進路のため	資格取得のため	社会に出て役立つから	興味をもてたから	専門的な知識や技能が身につくから	その他	DK/NA	
大学 A 大学	5.3%	2.5%	12.3%	67.5%	5.8%	3.7%	2.9%	100.0% (243)
桃山学院大学	17.6%	13.1%	13.1%	43.7%	7.2%	2.7%	2.7%	100.0% (222)
C 大学	14.7%	9.3%	10.7%	46.7%	8.0%	2.7%	8.0%	100.0% (75)
D 大学	34.8%	26.1%	4.3%	23.9%	6.5%		4.3%	100.0% (46)
合計	13.5%	9.2%	11.8%	52.4%	6.7%	2.9%	3.6%	100.0% (586)

表5 専門科目の勉強・研究に熱心に取り組んでこなかった理由

	専門科目の勉強・研究に熱心に取り組んでこなかった理由							合計
	将来の進路につながらないから	資格取得できないから	社会に出て役立たないから	興味をもてないから	専門的な知識や技能が身につかないから	その他	DK/NA	
大学 A 大学	9.8%	4.3%	8.7%	44.6%	6.5%	20.7%	5.4%	100.0% (92)
桃山学院大学	16.8%	3.0%	10.2%	51.5%	5.4%	6.6%	6.6%	100.0% (167)
C 大学	32.1%	3.6%	7.1%	32.1%	3.6%		21.4%	100.0% (28)
D 大学	25.0%			41.7%	4.2%	12.5%	16.7%	100.0% (24)
合計	16.7%	3.2%	8.7%	46.9%	5.5%	10.6%	8.4%	100.0% (586)

「専門科目の勉強や研究」については、〈熱心〉に取り組んできた理由と、〈熱心ではなかった〉理由をたずねている。表4は、〈熱心〉に取り組んできた理由を示している。4大学合計で選択率が最も高いのは「興味をもてたから」で、52.4%と半数を超えている。特に、入学難易度の高いA大学では約7割となっており、大学間での差も40ポイントと非常に大きくなっている。「将来の進路のため」は2番目に選択率が高く、大学間での差もかなり大きく、A大学では約5%なのに対して、D大学では3分の1の学生が選択している。

また、表5は〈熱心ではなかった〉理由を示している。4大学合計で選択率が最も高いのは、「興味をもてないから」で46.9%となっている。特に、本学社会科学部の学生は選択率が5割を超え、4大学中最も高くなっている⁶⁾。次いで選択率が高いのは、「将来の進路につながらないから」で16.7%となっている。大学間での差も大きく、A大学では約1割なのに対して、C大学では3割を超えている。

両者をあわせて考えると、入学難易度が高くない大学では、将来の進路との結びつきが「専門科目の勉強や研究」に〈熱心〉に取り組むかどうかに影響を与えるのに対して、入学難易度が高い大学では、興味関心がもてるかどうかの方が重要なようである。本学社会科学部の学生は、重視する点に関しては中間的な傾向を示しているが、興味をもてない者が多いことで、〈熱心〉に取り組んでいない割合が高くなっているようである。

6) 調査時、本学科の社会学を専門とする専任教員の数が極端に少なくなっていたことが影響している可能性がある。この後、専任教員を大幅に増員したが、木下栄二が共同研究の研究会で報告した授業評価アンケートの分析によると、社会科学部の学生による授業評価は近年大幅に向上している。

④大学での経験を通じて身につけた力

次に、学生が大学生活を通して、どのような能力を身につけたと認識しているのかをみてみよう。本調査では、伊藤文男（2007）や小杉礼子（2007）などを参考にして、次のような職業生活において必要だとされる5つの能力が大学生活を通じて身についたかどうかをたずねている。すなわち、自ら進んで意見を発言し、行動する力である①積極性。自分のまわりの人たちと協力する力である②協調性。まわりの人たちを引っ張っていく力である③統率力。新しいモノやアイデアを生み出す力である④独創性。最後に、責任をもって行動する⑤責任感である。

4大学合計で見たときに、5つの力を最も身につけることができた経験が何かをみてみよう（図2）。①積極性は「就職対策講座」で44.8%，②協調性は「クラブ・サークル活動」で71.1%，③統率力は「クラブ・サークル活動」で31.8%，④独創性は「専門科目の講義・

図 2-1 積極性

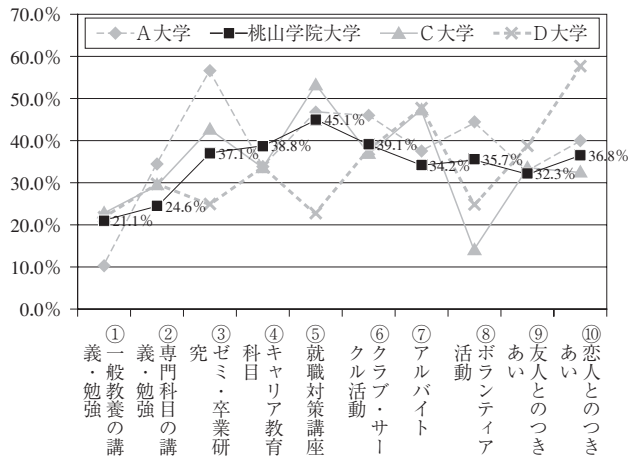


図 2-2 強調性

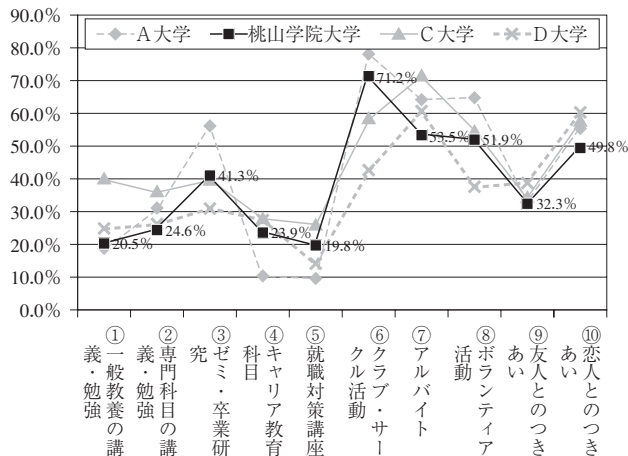


図 2-3 統率力

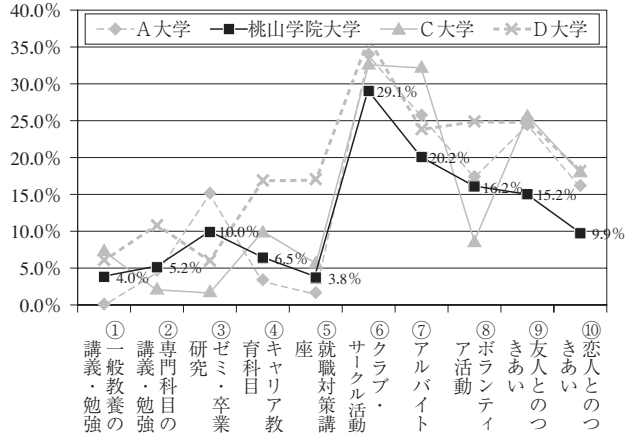


図 2-4 創造性

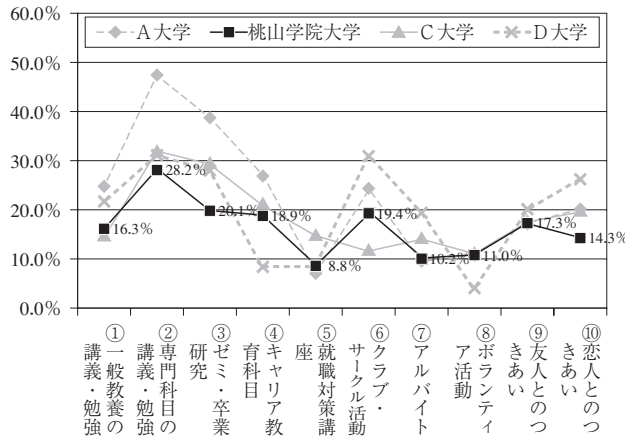


図 2-5 責任感

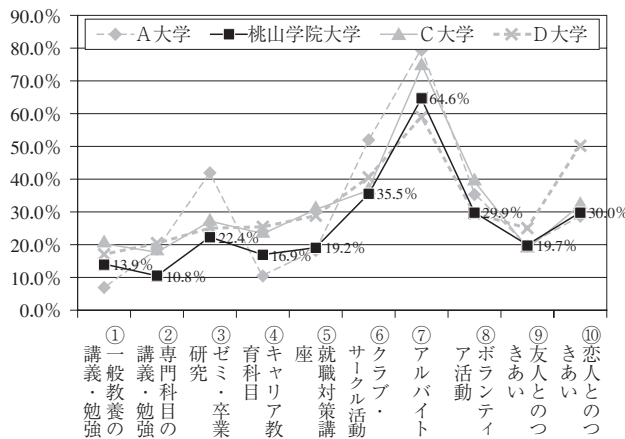


図 2 大学での経験を通じて身につけた力

注) 5つの力それぞれにおいて、各経験を「していない」を除いた割合(%)を示している。

勉強」で36.3%，⑤責任感は「アルバイト」で71.2%となっている。

職業生活において必要だとされる5つの力は、大学生活のそれぞれほぼ異なる領域で身についたと感じられており、多くの力を身につけるためには、幅広い活動が必要と感じられているようである。ここで注目されるのは、入学難易度の高いA大学の「ゼミ・卒論研究」である。5つのいずれの力でも、他の大学に比べその選択率がかなり高くなっていることがわかる。入学難易度の高い大学では、専門教育の中核を担う「ゼミ・卒論研究」において、多くの能力が身についたと感じられている。それに対して、本学社会科学部では、「ゼミ・卒論研究」の評価が全般としてかなり低くなっている⁷⁾。

(2) 将来就きたい職業

次に、職業希望の明確さと職業希望に影響を与えた要因をみてみよう。

①大学入学時の職業希望の明確度

表6は、大学入学時に将来就きたい職業があったかどうかをたずねたものである。4大学合計では、「はっきりあった」と「なんとなくあった」をあわせ〈あった〉とする者が約6

表6 入学時に将来就きたい職業があったか

	大学入学時の将来就きたい職業				合計
	はっきりあった	なんとなくあった	なかった	DK/NA	
大学 A大学	17.5%	39.3%	42.9%	0.3%	100.0% (331)
桃山学院大学	16.5%	41.1%	41.9%	0.5%	100.0% (387)
C大学	22.4%	35.7%	40.8%	1.0%	100.0% (98)
D大学	23.5%	44.1%	32.4%		100.0% (68)
合計	18.1%	40.0%	41.4%	0.5%	100.0% (884)

表7 入学時の希望職業の変化

	現在までの変化				合計
	その職業に就きたい	他の職業に就きたい	現在就きたい職業はない	DK/NA	
大学 A大学	51.9%	31.2%	16.4%	0.5%	100.0% (189)
桃山学院大学	53.8%	25.8%	19.6%	0.9%	100.0% (225)
C大学	56.9%	20.7%	17.2%	5.2%	100.0% (58)
D大学	63.0%	17.4%	17.4%	2.2%	100.0% (46)
合計	54.2%	26.4%	18.0%	1.4%	100.0% (518)

7) 本学社会科学部では、2010年度に演習改革を行っている。先述したような教員増もあり、演習（ゼミ）定員を減らし少人数化することで、よりきめの細かい指導を行えるよう改善した。また、それまで認められていた他学部生の応募や他学部の演習への応募を共通教育科目などを担当する教員のゼミに限定し、社会学を専門とする教員のゼミの専門性を高めた。さらに、合同ゼミの実施や公開ゼミなどの演習活性化策も試みている。就職活動の長期化などもあり、明確な成果を得るまでには至っていないが、筆者が本学に赴任した2006年度と比較すると、ゼミ選考やゼミへの取り組みにおける学生の積極性が増したように思われる。この点については、今後さらに検討していきたい。

割となっている。入学難易度が高くない大学において、明確度が高い傾向がみられる。

また、表7は、入学時に希望職業があった者に、その希望が現在までに変化したかどうかをたずねた結果を示している。4大学合計では5割の者が変化はないと回答している。裏返すと、約5割は変化していることになる。入学難易度が高いほど変化した割合が高くなる傾向がみられる。

②現在の職業希望の明確度

表8は、現在、就きたい職業があるかどうかを示している。4大学合計では、約7割の学生が将来就きたい職業が〈ある〉と回答している。入学難易度別にみると、C大学やD大学などで「はっきりある」の割合がやや高くなっている。

表9は、その職業に就きたいと思った時期である。表は省略するが、学年等を統制しても難易度の高い大学のほうが決定時期がやや遅いようである。

表8 現在就きたい職業があるか

	現在の将来就きたい職業				合計
	はっきりある	なんとなくある	ない	DK/NA	
大学 A大学	21.5%	53.8%	24.8%		100.0% (331)
桃山学院大学	23.8%	41.9%	33.9%	0.5%	100.0% (387)
C大学	29.6%	37.8%	31.6%	1.0%	100.0% (98)
D大学	29.4%	38.2%	32.4%		100.0% (68)
合計	24.0%	45.6%	30.1%	0.3%	100.0% (884)

表9 その職業に就きたいと思った時期

	職業に就きたいと思った時期						合計
	大学入学前	大学1年の時	大学2年の時	大学3年の時	大学4年以降	DK/NA	
大学 A大学	31.3%	12.4%	21.7%	28.9%	5.6%		100.0% (249)
桃山学院大学	39.5%	15.6%	12.9%	21.1%	8.2%	2.7%	100.0% (256)
C大学	35.8%	13.4%	13.4%	23.9%	10.4%	3.0%	100.0% (67)
D大学	60.9%	10.9%	10.9%	13.0%	2.2%	2.2%	100.0% (46)
合計	37.4%	13.8%	16.3%	23.9%	7.0%	1.6%	100.0% (618)

③希望職業の決定に影響を与えた要因

図3は、希望職業の決定に影響を与えた要因をみたものである（現在、就きたい職業が〈ある〉と回答した者のみ）。4大学全体の傾向としては、具体的なモデルとなる人からの影響が強いことがわかる。家族や身近な人、そしてメディアに登場した人も影響を与えている。また、「趣味・習い事」も選択率が5割を超えている。

本学社会科学科の特徴としては、「アルバイト」40.2%、「クラブ・サークル活動」39.5%、「他学部の講義・勉強」31.3%、「ボランティア活動」18.8%の影響が他大学に比べ強いことである。また、「専門科目の講義・勉強」は4大学で最も選択率が低くなっている。

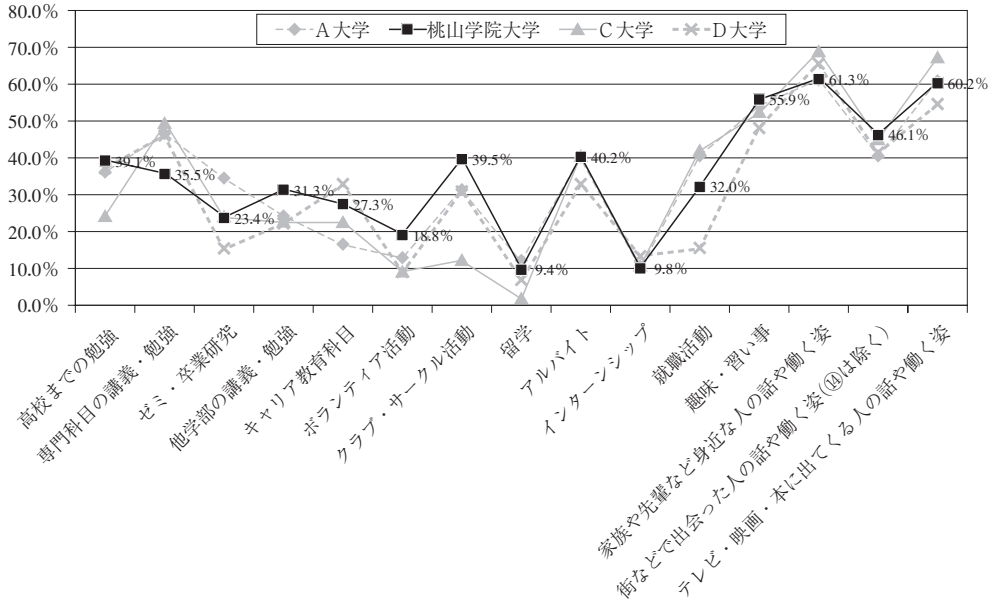


図3 希望職業の決定に影響を与えた要因

注)「かなり影響した」と「まあ影響した」をあわせた割合(%)。現在、就きたい職業があると回答した者、A大学249名、桃山学院大学256名、C大学67名、D大学46名における割合。そのような取り組みをしていない者も含む。

5. おわりに

今回の分析結果から明らかになった点をまとめると以下のようになる。

- 1) 入学時の意識や大学教育・学生生活に関する意識をみると、入学難易度によって完全に意識が規定されるわけではないことがわかる。しかし、入学難易度の高くない大学の学生は、実用的な知識や能力を身につけることを期待する傾向がある。他方、入学難易度の高い大学の学生は、専門的教育を通じて汎用性の高い知識や能力を身につけることを期待している。しかし、本学社会科学部の学生は、入学時から学術的な意味での専門性に対する期待が低く、入学後の取り組みにおいても、専門科目やゼミ・卒業研究への取り組みの熱心さは他大学と比較して高くない。
- 2) 職業希望は、入学難易度の高くない大学の学生のほうが明確であり、その決定時期も早い傾向がみられる。また、その決定にあたっては、4大学すべてにおいて具体的なモデルである家族や先輩などの身近な人やメディアに登場する人などが最も影響を与えている。本学社会科学部生の特徴としては、「専門科目の講義・勉強」から影響を受けたとする割合が4大学で最も低くなっており、上記1)の傾向と合致する。

このような結果からすると、難易度の高くない大学が学生の期待に応えるためには、実用的な専門教育に力を入れていくことになる。他方、難易度の高い大学では、学術的な専門教

育を行う中で、応用可能性の高い基礎的な能力を高めることが、学生の期待に応えることになる。そして、本学のような中堅の大学は、両者の中間に位置し、専門教育の特色づけにおいて非常に難しい対応を迫られていると言えよう。

なお、次稿以降で、(3) 労働観・職業観、(4) キャリア形成支援・就職支援に関する意識、(5) 就職活動に関する行動や意識について報告し、就職活動の満足度や内定獲得に関する規定要因の検討などさらに詳細な分析を行う予定である。

謝辞

まずは何よりも調査に回答して下さった4大学の学生の方々に心よりお礼を申し上げたい。また、匿名性を確保するため、お名前をあげることはできないが、調査実施にご協力いただいた各大学の教職員の方々に対しても、深謝を述べたい。

質問紙の作成に際しては、就職問題研究会（代表：苅谷剛彦・東京大学大学院教授〔当時〕）が1993年、1997年、2005年に実施した質問紙の内容を参考にさせていただいた。調査票を快く提供して下さった就職問題研究会のみなさまにも感謝を申し上げる。

【参 考 文 献】

- 濱中義隆 2007a 「現代大学生の就職活動プロセス」労働政策研究・研修機構編『大学生と就職——職業への移行支援と人材育成の視点からの検討』（労働政策研究報告書 No. 78）労働政策研究・研修機構
- 濱中義隆 2007b 「現代大学生の就職活動プロセス」小杉礼子編『大学生の就職とキャリア——「普通」の就活・個別の支援』勁草書房
- 平沢和司 2005 「大学から職業への移行に関する社会学的研究の今日的課題」『日本労働研究雑誌』（No. 542）労働政策研究・研修機構
- 本田由紀 2005 『若者と仕事——「学校経由の就職」を超えて』東京大学出版会
- 本田由紀 2009 『教育の職業的意義——若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- 堀有喜衣 2007 「大学の就職・キャリア形成支援の現状と課題」小杉礼子編『大学生の就職とキャリア——「普通」の就活・個別の支援』勁草書房
- 伊藤文男 2007 「正課科目を通じたキャリア支援：先進大学の実践」上西充子編『大学のキャリア支援——実践事例と省察——』経営書院
- 岩内亮一・苅谷剛彦・平沢和司編 1998 『大学から職業へⅡ——就職協定廃止直後の大学労働市場——』（高等教育研究叢書52）広島大学大学教育研究センター
- 岩田考 2010 「進路未定とフリーター」中村高康編『進路選択の過程と構造——高校入学から卒業までの量的・質的アプローチ』ミネルヴァ書房
- 苅谷剛彦 1995 「就職プロセスと就職協定」苅谷剛彦編『大学から職業へ——大学生の就職活動と格差形成に関する調査研究——』（高等教育研究叢書31）広島大学大学教育研究センター
- 苅谷剛彦・平沢和司・本田由紀・中村高康・小山治 2006 「大学から職業へⅢ——就職機会決定のメカニズム——」『東京大学大学院教育学研究科紀要』（第46巻）
- 苅谷剛彦編 1995 『大学から職業へ——大学生の就職活動と格差形成に関する調査研究——』（高等教育研究叢書31）広島大学大学教育研究センター
- 苅谷剛彦・本田由紀編 2010 『大卒就職の社会学——データからみる変化』東京大学出版会
- 木下栄二 2011 「新入生実態アンケート調査の分析（1）——「フェイス」および「大学（本学）の選択理由・入学後の期待等」『桃山学院大学総合研究所紀要』36（2）
- 児美川孝一郎 2011 『若者はなぜ「就職」できなくなったのか？——生き抜くために知っておくべきこ

- と』日本図書センター
- 小杉礼子 2007「企業からの人材要請と大学教育・キャリア形成支援」小杉礼子編『大学生の就職とキャリア——「普通」の就活・個別の支援』勁草書房
- 小杉礼子編 2007『大学生の就職とキャリア——「普通」の就活・個別の支援』勁草書房
- 松繁寿和編 2004『大学教育効果の実証分析——ある国立大学卒業生たちのその後——』日本評論社
- 永野仁編 2004『大学生の就職と採用』中央経済社
- 日本経済団体連合会 2008「大学卒業予定者・大学院修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章」
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2008/072.html> (2011年12月14日閲覧)
- 日本経済団体連合会 2011「採用選考に関する企業の倫理憲章 (2011年3月15日改定)」
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2011/015.html> (2011年12月14日閲覧)
- 小方直幸 1998「大卒者の就職と初期キャリアに関する実証的研究——大学教育の職業的レリバンス——」『広島大学大学院 社会科学科研究科国際社会論専攻 比較高等教育研究 博士論文シリーズ』(No. 1) 広島大学教育研究センター
- 小方直幸 2006「大学教育と労働市場の研究——回顧と展望——」『大学論集』(第36集) 広島大学高等教育研究開発センター
- 労働政策研究・研修機構編 2007『大学生と就職——職業への移行支援と人材育成の視点からの検討』(労働政策研究報告書 No. 78) 労働政策研究・研修機構
- 沢田健太 2011『大学キャリアセンターのぶっちゃけ話——知的現場主義の就職活動』ソフトバンククリエイティブ
- 中央教育審議会 2011「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育のあり方について (答申)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm (2011年12月14日閲覧)
- 上西充子編 2007『大学のキャリア支援——実践事例と省察——』経営書院
- 安田雪 1999『大学生の就職活動』(中公新書1462) 中央公論新社
- 吉本圭一 2003「大学教育の職業生活への関連性」日本労働研究機構編『高等教育と職業に関する日欄比較——高等教育卒業生調査の再分析』(調査研究報告書 No. 162) 日本労働研究機構
(2011年12月21日受理)

2008年10・11月実施

大学生のキャリアと就職に関する調査

桃山学院大学
社会学部社会学科
准教授 岩田 考

【調査ご協力お願い】

この度、桃山学院大学総合研究所共同プロジェクト『『大学生』に関する総合的研究』（研究代表：木下栄二）の一環として、大学生のみなさんにアンケートのご協力をお願いすることになりました。この調査の目的は、大学生のみなさんの働くことや就職に関する意識を把握することにあります。調査のデータは、研究およびキャリアセンター等の改善のための提案以外の目的で使用することはありません。結果の概要については、先生を通じて今学期中にお知らせする予定です。

また、みなさんの回答は、すべて統計的に処理し、結果は集計表の形（数字）で出しますので、プライバシーを侵害するなどのご迷惑をかけることは決してありません。その点はどうかご安心くださって、どうぞありのままにお答えくださいますようお願い致します。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

記入にあたってのお願い

1. 他の方と相談せず、お答えください。
2. お答えは、あてはまる番号に○をつけていただくか、〔 〕内に数字を記入していただくものがほとんどです。それぞれの質問には回答の際の注意も書かれておりますので、質問文をよくお読みください。
3. 回答の記入は、黒か青のボールペン・鉛筆・シャープペンシルでお願いします。

【お問い合わせ先】

桃山学院大学社会学部社会学科准教授

いわた こう
岩田 考 E-mail :

電話 :

●はじめに、あなたご自身についてお聞きます。

F 1 あなたが所属している大学・学部・学科はどこですか。

[] 大学 [] 学部 [] 学科

F 2 あなたは、女性ですか、それとも男性ですか： 1. 女 2. 男

F 3 あなたは、何歳ですか： 満 [] 歳

F 4 あなたは、何年生ですか： 1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生以上

F 5 あなたは、海外からの留学生ですか： 1. はい 2. いいえ

F 6 あなたは、現在どこに住んでいますか。

1. 自宅 2. 一人暮らし（下宿を含む） 3. その他（具体的に：_____）

F 7 あなたは、クラブやサークルに所属していますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1. 体育会 | 2. 学生自治の団体 |
| 3. 文化・芸術系の学内サークル | 4. 学術・社会系の学内サークル |
| 5. ボランティア系のサークル | 6. スポーツ系の学内サークル |
| 7. イベント・交流系の学内サークル | 8. 複数の大学の学生で構成するサークル |
| 9. 他大学のサークル | 10. その他（具体的に：_____） |
| 11. 所属したことはあるが現在は所属していない | 12. 一度も所属したことはない |

●次に、あなたの学生生活についてお聞きます。

Q 1 あなたは、大学に入学する際、現在在籍している学部をどのような理由で選びましたか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 専攻したい学問・研究だったから | 2. 将来の進路のため |
| 3. 学力レベルがあっていたから | 4. 学部の就職状況が良いため |
| 5. まわりの友だちが行くから | 6. 家族のすすめ |
| 7. 友人・先輩のすすめ | 8. 恋人のすすめ |
| 9. 先生のすすめ | 10. 何となく |
| 11. その他（具体的に：_____） | |

Q 2 あなたの大学での成績を教えてください。不可の割合は除いて、合計して10割になるようお答えください。

優 (A)	良 (B)	可 (C)
[] 割くらい	[] 割くらい	[] 割くらい

5段階評価の場合（例えば秀・優・良・可・不可）は、上位2つを合わせて優 (A) と考えてください。

Q3 あなたは、大学の授業でどのようなことを最も学びたいと思いますか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 幅広い知識やものの見方
2. 専門的な知識や技能
3. 何かを学ぶ際に基礎となる力（問題を発見する力・分析的に考える力・論理的に文章を書く力など）
4. 将来の職業で役立つ知識や技能
5. コミュニケーション能力
6. その他（具体的に： _____）

Q4 あなたは、大学に入学してから、専門科目の勉強・研究にどの程度熱心に取り組んできましたか。最もあてはまるものに○をつけてください。

非常に 熱心	ある程度 熱心	あまり 熱心ではない	まったく 熱心ではない
1	2	3	4

必ず番号に○をつけてからお進みください

【Q4で「熱心」と答えた方にお聞きます】

SQ 熱心に取り組んできた理由は何ですか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 将来の進路のため
2. 資格取得のため
3. 社会に出て役立つそうだから
4. 興味をもてたから
5. 専門的な知識や技能が身につくから
6. その他（具体的に： _____）

【Q4「熱心ではない」と答えた方にお聞きます】

SQ 熱心に取り組んでこなかった理由は何ですか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 将来の進路につながらないから
2. 資格取得できないから
3. 社会に出て役立つたないから
4. 興味をもてないから
5. 専門的な知識や技能が身につかないから
6. その他（具体的に： _____）

Q5 あなたは、大学に入学してから、次のようなことにどれくらい熱心に取り組んできましたか。①から⑨のそれぞれについて、最もあてはまるものに○をつけてください。

	非常に 熱心	ある程度 熱心	あまり 熱心 ではない	まったく 熱心 ではない	していない つきあいが ない
① 一般教養の講義・勉強	1	2	3	4	5
② 実習・実験	1	2	3	4	5
③ ゼミ・卒業研究	1	2	3	4	5
④ 自主的な勉強会	1	2	3	4	5
⑤ クラブ・サークル活動	1	2	3	4	5
⑥ アルバイト	1	2	3	4	5
⑦ ボランティア活動	1	2	3	4	5
⑧ 友人とのつきあい	1	2	3	4	5
⑨ 恋人とのつきあい	1	2	3	4	5

Q 6 あなたは、①から⑩のような経験を通じて、以下のような力がついたと思いますか。それぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

	1. 積極性 自ら進んで 意見を発言 したり、行 動する力	2. 協調性 自分のまわ りの人たち と協力する 力	3. 統率力 まわりの人 たちを引っ 張っていく 力	4. 独創性 新しいモノ やアイデア を生み出す 力	5. 責任感 責任をもっ て行動する 力	6. どの力 もついてい ない	7. してい ない
① 一般教養の講義・勉強	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
② 専門科目の講義・勉強	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
③ ゼミ・卒業研究	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
④ キャリア教育科目 注1)	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
⑤ 就職対策講座 注2)	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
⑥ クラブ・サークル活動	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
⑦ アルバイト	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
⑧ ボランティア活動	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
⑨ 友人とのつきあい	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない
⑩ 恋人とのつきあい	1. 積極性	2. 協調性	3. 統率力	4. 独創性	5. 責任感	6. ついていない	7. していない

注1) キャリア教育科目：将来の職業などに関する正規の授業

注2) 就職対策講座：エントリーシートの書き方指導など就職課やキャリアセンター等が実施する正規の授業以外の講座

●次に、将来就きたい職業や仕事に関する意識などについてお聞きします。

Q 7 大学に入学した時、将来就きたい職業がありましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. はっきりあった 2. なんとなくあった 3. なかった

必ず番号に○をつけてから
お進みください

【Q7で「1. はっきりあった」「2. なんとなくあった」と答えた方にお聞きします】

SQ その職業に現在も就きたいと思っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. その職業に就きたい 2. 他の職業に就きたい 3. 現在就きたい職業はない

Q 8 現在、将来就きたいと思う職業がありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. はっきりある 2. なんとなくある 3. ない

必ず番号に○をつけてから
お進みください

【Q8で「1. はっきりある」「2. なんとなくある」と答えた方にお聞きします】

SQ1 その職業にいつ頃から就きたいと思うようになりましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 大学入学前 2. 大学1年の時 3. 大学2年の時 4. 大学3年の時 5. 大学4年以降

【Q 8 で現在就きたい職業が「1. はっきりある」「2. なんとなくある」と答えた方にお聞きします】

SQ2 あなたが、その職業に就きたいと思うようになった際に、次のようなことはどのくらい影響しましたか。①から⑯のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

	かなり 影響した	まあ 影響した	ほとんど 影響しな かった	まったく 影響しな かった	していい つきあいが ない あてはまらない
① 高校までの勉強	1	2	3	4	5
② 専門科目の講義・勉強	1	2	3	4	5
③ ゼミ・卒業研究	1	2	3	4	5
④ 他学部の講義・勉強	1	2	3	4	5
⑤ キャリア教育科目	1	2	3	4	5
⑥ 就職対策講座	1	2	3	4	5
⑦ ボランティア活動	1	2	3	4	5
⑧ クラブ・サークル活動	1	2	3	4	5
⑨ 留学	1	2	3	4	5
⑩ アルバイト	1	2	3	4	5
⑪ インターンシップ	1	2	3	4	5
⑫ 就職活動	1	2	3	4	5
⑬ 趣味・習い事	1	2	3	4	5
⑭ 家族や先輩など身近な人の話や働く姿	1	2	3	4	5
⑮ 街などで出会った人の話や働く姿(⑭は除く)...	1	2	3	4	5
⑯ テレビ・映画・本に出てくる人の話や働く姿...	1	2	3	4	5

Q 9 あなたにとって、働く目的とは何ですか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 生活のため | 2. 社会人として責任を果たすため |
| 3. 自分の能力を発揮するため | 4. 老後に安定した生活を送るため |
| 5. 資格や能力を身につけるため | 6. 夢の実現のため |
| 7. 働くことが好きだから | 8. 特に目的意識はない |
| 9. その他（具体的に：_____） | |

Q10 あなたにとって、理想的な職場とはどのようなものですか。最も重視するものから順に3つまで選び、その番号を〔 〕内に記入してください。

- ① 1番目〔 〕 ② 2番目〔 〕 ③ 3番目〔 〕

1. 高収入が得られる	2. 労働時間が短い
3. 転動がない	4. 福利厚生が充実している
5. 人間関係が円満である	6. 仕事がおもしろいと感じられる
7. 専門的な知識や技能が身につく	8. 社会的に評価される
9. 仕事と家庭が両立できる	10. 長期雇用が保障される
11. 自分の裁量で仕事ができる	12. 実力主義が浸透している
13. その他（具体的に：_____）	

Q11 あなたは、自らの職業についての適性をどの程度把握していると思いますか。最もあてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

1. はっきり把握している 2. ある程度把握している 3. あまり把握していない 4. まったく把握していない

Q12 あなたは、将来の仕事に関することを、次のような人たちと話すことがありますか。①から⑨のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

	よく話す	ある程度話す	あまり話さない	まったく話さない	いない
① 親などの保護者	1	2	3	4	5
② きょうだい	1	2	3	4	5
③ 親戚 (①と②は含まない)	1	2	3	4	5
④ 大学入学以前からの友人・先輩・後輩	1	2	3	4	5
⑤ 大学の友人・先輩・後輩 (④は含まない)	1	2	3	4	5
⑥ アルバイト先の友人・先輩・後輩(④と⑤は含まない)	1	2	3	4	5
⑦ 恋人	1	2	3	4	5
⑧ 大学の先生	1	2	3	4	5
⑨ 就職課・部やキャリアセンターの職員	1	2	3	4	5

Q13 あなたが将来働く際、最初の勤め先でいつまで働きたいと思いますか。最もあてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

1. 最初の勤め先で定年まで働きたい
 2. 最初の勤め先で一定期間働いた後、転職したい
 3. 最初の勤め先で一定期間働いた後、独立したい
 4. 最初の勤め先で一定期間働いた後、仕事をやめたい
 5. その他 (具体的に: _____)

Q14 あなたが将来働きはじめて、仕事を辞めたいと思うとしたら、どのような時だと思いますか。最もあてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

1. やりがいを感じない時
 2. 会社の将来に期待できない時
 3. 給料が低い時
 4. 休みが少ない時
 5. 人間関係がうまくいかない時
 6. 意見が認められない時
 7. 業績が正当に評価されない時
 8. その他 (具体的に: _____)

Q15 あなたは、大学に入学してから、インターンシップに参加したことがありますか (あるいは現在参加していますか)。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

1. 参加したことがある (あるいは現在参加している)
 2. 参加したことはないが、今後参加したい (参加する予定である)
 3. 参加したこともないし、今後も参加する予定はない

●次に、大学の就職課・部やキャリアセンターについてお聞きします。

Q16 次のような大学の就職課・部やキャリアセンターのキャリア形成支援や就職支援は、どの程度役に立ちましたか。①から⑭のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

	役立った	やや役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	利用していない
① 配布された就職手帳や就職ノート	1	2	3	4	5
② ビジスマナーの指導	1	2	3	4	5
③ 適性検査	1	2	3	4	5
④ 資格取得の支援	1	2	3	4	5
⑤ 自己分析のやり方の指導	1	2	3	4	5
⑥ 履歴書やエントリーシートの書き方の指導	1	2	3	4	5
⑦ OBやOGの名簿や紹介	1	2	3	4	5
⑧ 内定者との交流会	1	2	3	4	5
⑨ 学内企業説明会	1	2	3	4	5
⑩ インターンシップ	1	2	3	4	5
⑪ SPI対策や就職模擬試験	1	2	3	4	5
⑫ 公務員試験や教員試験の対策	1	2	3	4	5
⑬ 模擬面接	1	2	3	4	5
⑭ 個別企業の情報・求人情報の提供	1	2	3	4	5

Q17 あなたは、就職課・部やキャリアセンターのキャリア形成支援や就職支援に満足していますか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

大満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	利用していないのでわからない
1	2	3	4	5

Q18 あなたは、今後、どのようなキャリア形成支援や就職支援を展開したらよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 積極的なアドバイスやサポート
2. 身だしなみやマナーなど就職活動の基本指導
3. 担当職員の増員
4. 就職活動に限定されない学生生活全般の指導
5. 積極的な求人情報の提供
6. 内定者との交流機会の拡大
7. OBやOGとの交流機会の拡大
8. インターンシップの機会の拡大
9. 学内での企業説明会の増大
10. カウンセラーによる精神的なサポート
11. 外部講師の導入など支援機能の外部委託
12. 正規の授業としてのキャリア教育科目の設置や拡大
13. 学生自らが企画・運営する学生主導の支援
14. 全員参加型の就職活動対策のための合宿

15. その他（具体的内容をお書きください。）

以下のQ19～Q20は3年生以上の方のみお答えください。1・2年生の方は9ページのQ27へお進みください。

●次に、就職活動についてお聞きします。

Q19 あなたは、3年生の10月頃、就職について、どのように考えていましたか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 遅くとも卒業するまでには決めたい
2. 別に卒業するまででなくても就職できればよい
3. 収入が得られるので、アルバイトや派遣でもよい
4. 特に就職しようとは考えていなかった

Q20 あなたは、就職に備えて次のことをしましたか。①～⑧について、それぞれ何年生の何月ごろから行い始めたかを〔 〕に記入してください。行っていない場合は、「2」に○をつけてください。

	1. 行った	2. 行っていない
① 大学主催のガイダンスに参加した	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
② 就職支援サイト（リクナビなど）に登録した	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
③ 就職活動のための自己分析を始めた	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
④ インターネットなどで企業に資料請求をした	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
⑤ OB・OGに連絡をとった	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
⑥ エントリーシートを提出した	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
⑦ 企業説明会やセミナーなどに参加した	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2
⑧ 企業で人事面接を受けた	〔 〕年生の〔 〕月頃から	2

Q21 あなたは現在、就職活動をしていますか。それぞれあてはまるものに1つだけ○をつけて下さい。

1. している →

1. 内定（内々定）をもらったが、まだ就職活動をしている
2. まだ内定（内々定）をもらっていないので、就職活動をしている
2. していない ↘

1. 内定（内々定）をもらったので、就職活動をやめた
2. 内定（内々定）をもらっていないが、就職活動をやめた
3. 始めから就職活動をしていない

以下のQ22～Q23は少しでも就職活動をした方のみお答えください。他の方は9ページのQ27へお進みください。

Q22 あなたは、自分が行った就職活動にどの程度満足していますか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|--------------|--------------|----------------|-----------------|
| 大変
満足している | まあ
満足している | あまり
満足していない | まったく
満足していない |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

Q23 あなたの就職活動において、①～⑦にあてはまる企業はそれぞれ何社ずつですか。数を〔 〕に記入して下さい。なければ0を記入して下さい。

① 資料を請求した企業	約〔 〕社	④ 筆記試験を受けた企業	約〔 〕社
② エントリーシートを送った企業	約〔 〕社	⑤ 面接を受けた企業	約〔 〕社
③ 説明会に参加した企業	約〔 〕社	⑥ 内定（内々定）をもらった企業	約〔 〕社

④ 以下のQ24～Q26は内定（内々定）をもらった方にお聞きます。他の方は9ページのQ27へお進みください。

Q24 あなたがはじめに内定（内々定）をもらったのはいつですか。

〔 〕年生の〔 〕月の

1. 上旬 2. 中旬 3. 下旬

④ 学年と月を〔 〕内に記入後、1～3のいずれか1つに○をつけてください

Q25 卒業後就職する内定先は、あなたが入社したいと思っていた企業ですか。最もあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

1. 初めから入社したいと思っていた
2. 途中から入社したいと思うようになった
3. まだ入社することを迷っている

Q26 卒業後就職する内定先の企業についてお聞きます。

①本社所在地

1. 〔 〕都・道・府・県 2. 海外

②企業全体の従業員数

1. 29人以下 2. 30～299人 3. 300～999人 4. 1000人以上
5. 官公庁・学校など 6. わからない

③業種（企業の事業内容）

1. 製造業・建設業 2. 商社・卸売 3. 百貨店・小売店・飲食店
4. 金融・保険業 5. 運輸・通信・電気・ガス 6. マスコミ・広告・調査
7. ソフトウェア・情報処理 8. 教育 9. その他のサービス業
10. 公務 11. その他（具体的に_____）

④職種

1. 決まっていない 2. 営業・販売職 3. 事務職 4. 技術職
5. 運輸・通信の職業 6. 保安・サービスの職業 7. 製造の職業 8. 教員・保育士
9. その他の専門職 10. その他（具体的に_____）

⑤コース

1. 総合職（転勤あり） 2. 一般職 3. いわゆるコース別採用はない
4. その他（具体的に_____）

以下のQ27～Q32はすべての方がお答えください。

●最後に、あなたの考え方や日頃の生活などについてお聞きします。

Q27 次のことがらは、あなたにどの程度あてはまりますか。①から⑪のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

	そうだ	どちらか といえば そうだ	どちらか といえば そうではない	そうでは ない
① 政治に関心がある	1	2	3	4
② 悩みごとをカウンセラーに相談してみたい	1	2	3	4
③ ほとんどの人は信頼できる	1	2	3	4
④ どんな場面でも自分らしさを貫くことが大切だ	1	2	3	4
⑤ 容姿に自信がある	1	2	3	4
⑥ 誰とでもすぐ仲良くなれる	1	2	3	4
⑦ 表情やしぐさで相手の思っていることがわかる	1	2	3	4
⑧ 人の話の内容が間違いだと思ったときには 自分の考えを述べるようにしている	1	2	3	4
⑨ 気持ちをおさえようとしても、それが顔に表れてしまう	1	2	3	4
⑩ まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、 それを上手に処理できる	1	2	3	4
⑪ 感情を素直にあらわせる	1	2	3	4

Q28 次にあげることは、あなたの考え方や生き方にあてはまりますか。以下のうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 年齢よりも、実績によって給与が決められる方がよい
2. 収入に恵まれなくても自分のやりたい仕事をしたい
3. 学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から経済的に自立すべきだ
4. フリーターや派遣社員は、長期間続けるべき仕事ではない
5. 自分のやりたい仕事が見つからなければ働かなくてもよい
6. 努力すれば満足できる地位や収入は得られるものだ
7. 私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない
8. 収入が高なくても、家から近いところでの仕事がいい
9. 学歴は、本人の実力をかなり反映している
10. 将来に備えて耐えるより、今という時間を大切にしたい
11. 将来について夢を持っている
12. あてはまるものがない

Q29 現在の日本社会の状況について、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

そう思う どちらか
 といえ といえ そう
 そう思 そう思 思わな
 う う い

- ① ある程度の経済的な格差が生じるのはしかたない … 1 …… 2 …… 3 …… 4
- ② 経済的な格差を解消するのは個人の役割だ …… 1 …… 2 …… 3 …… 4
- ③ 経済的な格差を解消するのは国家の役割だ …… 1 …… 2 …… 3 …… 4

Q30 あなたには、悩みや心配ごとがありますか。以下のうち、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1. 勉強や進学のこと 2. 就職のこと 3. 仕事のこと
- 4. 家族のこと 5. 友だちや仲間のこと 6. 異性のこと
- 7. お金のこと 8. 政治や社会のこと 9. 性格のこと
- 10. 健康のこと 11. 容姿のこと 12. この中にはない
- 13. 悩みや心配ごとはない

Q31 あなたは、次のような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。①～③のそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください。

そうだ どちらかと
 い い そう
 え え だ
 ば ば ではない
 そう そう ではない

- ① 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」 …… 1 …… 2 …… 3 …… 4
- ② 「子どもが小さいときは、子どもの世話をするのは、 … 1 …… 2 …… 3 …… 4
母親でなければならない」
- ③ 「女性も、自分自身の職業生活を重視した …… 1 …… 2 …… 3 …… 4
生き方をすべきだ」

Q32 あなたのご両親が最後に卒業された学校は、以下のうち、どれにあてはまりますか。それぞれについて、あてはまる番号を〔 〕内に記入してください。

① 父親〔 〕 ② 母親〔 〕

1. 小学校	2. 中学校
3. 高校	4. 専門学校・各種学校
5. 短大・高専	6. 大学・大学院
7. わからない	8. いない
9. その他（具体的に：父親	母親

●インタビューに協力してくださる方を募集しています

アンケートでは質問することが難しい大学生活や就職活動などの詳細について、インタビューに協力して下さる方を募集しています。インタビューに協力してもよいという方は、下記にメール・アドレスを記入してください。インタビューのお願い以外で使用することは決してありません。よろしくお願いたします。

メール・アドレス	
----------	--

- この調査に関して何かご意見・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。

長い間面倒な調査にご協力いただき、ありがとうございました。
記入もれがないかどうか、いま一度読み返していただければ幸いです。

Professional Education and Career-Development Support at Private Universities (1)

—Comparative Analysis of Student Surveys at Four Universities—

Koh IWATA

This article aims to discuss the relationships between professional education and career-development support including career education based on the data of the “Survey on Careers and Employment of University Students” which targeted students at four universities in the Kansai area. Especially, this article focuses on clarifying challenges that face middle-ranking private universities like ours. We are going to report on the analytical findings over several instances, and examine in this article 1) students’ awareness at the time of university entry and their consciousness of university education and college life and 2) their expectations about employment.

The analysis we conducted this time clarified the following points:

- 1) Regarding students’ awareness at the time of university entry and their consciousness of university education and college life, those enrolled at universities that are easy to enter have a tendency to expect to acquire practical knowledge and skills while those enrolled at competitive universities tend to expect to acquire versatile knowledge and skills;
- 2) As for expectations about employment, students enrolled at universities that are easy to enter have more specific ideas and tend to make decisions at an earlier point.

These findings suggest that in order to satisfy the expectations of students, universities that are easy to enter need to make strong efforts in practical professional education. On the other hand, competitive universities can satisfy the expectations of their students by enhancing their highly applicable basic skills while conducting academic professional education. Middle-ranking universities like ours, falling between those two types, are facing extreme difficulty in characterizing their professional education.